

岩手県紫波町は、田園と里山が広がる穏やかな町です。食料自給率170%を誇り、町内十一カ所にある直売所には、色とりどりの新鮮な野菜や果物がずらりと並びます。JR紫波中央駅前の新しいまち「オガール地区」には、中央の芝生広場を囲んで図書館や交流・飲食施設、ホテルなどが立地し、にぎわいが生まれています。隣接するオガールタウンでは、町産材を使ったエコハウスも建築中です。

東北復興日記

106



紫波グリーン
エネルギー
氏家芙由子さん

地域完結型熱システム

真。紫波の森林から出る間伐材などの木質チップを、大きなボイラーで燃やして七十〜七十五度の熱水を作り、地区一帯にめぐらせた配管を通して施設や住宅に送る地域熱供給システムです。燃料、

また、町内の小学校や公民館など十一カ所の屋

根には、合計で約一畝の太陽光発電所を建設中です。町から公共施設の屋根を借りて進めている

「市民参加型おひさま発電事業」で、事業資金の一部は町内外から「紫波ゆめあかりファンド」で

出資を募りました。二十一年間、東北電力に売電し、その収入から出資者の皆さんへの分配を行います。工事やメンテナンスは地元の仕事にお願いしました。地域のさまざまな人と手を結んでプロジェクトを進めることで、お金とノウハウの地域還元を目指します。

今月、町内有志で「里山エネルギーシフト紫波」を立ち上げました。石油の時代から里山エネルギーの時代へ、地域のエネルギーの自立を皆で考えてみようという趣旨です。キックオフフォーラムには町内外から農家や大学生、役場職員、NPO関係者、市民など三十人ほどが参加。ワークショップで出たユニークな意見やアイデアを、今後掘り下げていくことが楽しみです。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

